

Ⅲ 系統的な指導（中学校の授業モデル）

小学校の音声指導で取り扱っていたものを中学校では文字指導で扱い、小学校で慣れ親しんだ表現を中学校で定着させるための手立てが必要になってきます。



- 1 単元名 第1学年「Unit5 学校の文化祭」
- 2 目標 知らないものなどについて尋ねる「What's this?」を用いたり、「This」を使ってものの性質や状態を話したりすることができる。

授業充実の3ポイントを踏まえた学習過程	学習活動	時間(分)形態	教師の具体的な働きかけ
<p>[目標の明確化]</p> <p>1 興味・関心が生まれる導入</p> <p>2 課題(問題)意識の焦点化</p> <p>3 めあての設定</p> <p>視点1</p> <p>4 解決の予想と見通し</p> <p>視点1</p>	<p>1 奄美で有名なものを出し合う。 鶏飯 ルリカケス 大島紬 海黒糖焼酎 ハブ クロウサギ</p> <p>2 めあてを提示する。</p> <p>外国の人に奄美のよさを紹介するには、どのような表現を使えばよいだろうか。(観光ボランティアに挑戦!)</p> <p>3 ルリカケスを例に、紹介文の作り方を知る。 A:観光客, B:観光ボランティア A:What's this? B:It's <i>rurikakesu</i>. This is a bird. This bird is very beautiful. A:Oh,I see. Thank you.</p>	5 一斉 2 一斉 5 一斉	<p>○ 学習への関心をもたせるために、生徒に身近な地域素材を考えさせる。生徒の発言から出てきたものは黒板に掲示する。</p> <p>☆ 意欲的に取り組むための目標の設定</p> <p>○ 奄美には、多くの外国人が訪れることにふれ、その人たちに奄美のよさを伝えるという場面設定を行う。</p> <p>☆ 関心意欲を高め、活動へと転換させるための英文例の提示</p> <p>○ ルリカケスから連想するものを発表させ、どのようにスキットを作るか例示する。作成例は黒板に掲示する。</p>
<p>[山場の工夫]</p> <p>5 自力解決による最初の考えの構築</p> <p>視点2</p> <p>6 考えの交流(学び合い)</p> <p>視点2 視点3</p> <p>7 自力解決による最終的な考えの構築</p> <p>視点2</p>	<p>4 何について説明するか決める。</p> <p>5 説明するものについて紹介文を考える。(個人⇒ペア)</p> <p>It's <i>habu</i>. This is a snake. This snake is very dangerous. The head is triangle. It's <i>kurousagi</i>. This is an animal. It has short ears.</p> <p>6 外国人とボランティア役に分かれて話す練習をしながら表現の交流をする。</p> <p>☆ 自信をもたせるための発表の場の設定 ☆ 新たな発見に気付かせるための役割交換</p> <p>7 代表のペアが全体発表をする。(全体)</p> <p>8 発表で出た意見も参考にしてカードに紹介文を清書する。(個人)</p> <p>☆ 文字の正確さや語順を意識させるためのカード ☆ さらに質の高い表現へと練り上げるための発表</p>	15 個 ペア 5 ペア 5 一斉 5 個	<p>○ 活動の意欲をもたせるために、生徒に説明したいものを選択させる。</p> <p>☆ 学習形態の工夫</p> <p>○ 例文を参考に個人で紹介文を考えさせ、ペアで練り合わせる。</p> <p>○ 例文以外の表現を考える場合は辞書を活用したり、教師が助言したりする。</p> <p>○ 自信をもたせるように、練習する機会を多く作る。(全体にも広げる)また、新しい表現に気付かせるために役割を変える。</p> <p>[対話的な学び]</p> <p>○ 対話的な学びを実現させるために、代表のやり取りを聞いて互いの考えを比較し、共通点や相違点に気付かせながら、新たな表現を構想させる。</p> <p>○ スペルに気を付けさせるとともに、よりよい表現を取り入れることを助言する。</p> <p>○ This is a (名詞). と This (名詞) is (形容詞) の語順の違いをしっかりと押さえる。</p> <p>○ 語順を並べ替える問題を解かせる。</p>
<p>[確かめ見届け]</p> <p>8 学習のまとめ</p> <p>9 習熟</p> <p>10 振り返り</p>	<p>9 学習のまとめをする。</p> <p>This is a ○○○(名詞). This ○○○ is △△△. (名詞) (形容詞)</p> <p>10 ポストテストを解き、自己評価をする。</p>	5 一斉 3 個	<p>○ This is a (名詞). と This (名詞) is (形容詞) の語順の違いをしっかりと押さえる。</p> <p>○ 語順を並べ替える問題を解かせる。</p> <p>○ 終わった後、学習活動について自己評価を行わせる。</p>

【コアティーチャーネットワークプロジェクト外国語活動・英語科部員】
有水美由紀(名瀬小), 本田洋一(伊津部小), 坂上裕隆(大川小), 緒方一行(東城小), 西記三恵(和泊小)
西山宣之(金久中), 中里由佳(市中), 時田三紀(大和中), 東修平(田検中), 鮫島聡子(赤徳中)
新彰(奄美市教育委員会), 高味淳(大島教育事務所)

授業力向上リーフレット 外国語活動・外国語科編

=H29コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ=

大島教育事務所

「かごしま学力向上プログラム」の一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。
大島地区で課題のある単元や指導法に焦点を当てていますので、ぜひ、参考にして日々の授業に生かしましょう。

- I 授業の概要
- 1 単元名 第6学年「Hi, friends! Lesson7 What's this? クイズ大会をしよう」
 - 2 目標
 - (1) あるものについて積極的にそれが何か尋ねたり、答えたりしようとする。
 - (2) あるものが何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
 - (3) 日本語と英語の共通点や相違点から、言葉の面白さに気付く。
 - (4) グループ活動で、クイズを協同して作成することで、自分の考えを広げる。

なぜ、この単元を選んだのかな?



「鹿児島学習定着度調査」の結果(県の平均正答率との差)から

観点	表現の能力	中1		中2	
		H27	H28	H27	H28
観点	理解の能力	-5.5	-3.1	-1.3	-3.0
	言語や文化についての知識・理解	-5.6	-4.1	-3.6	-3.8
	話すこと	-3.7	-2.0	0.6	-4.1
領域	読むこと	-7.2	-6.4	-5.2	-3.3
	書くこと	-4.0	-3.9	-2.1	-4.7
	書くこと	-3.7	-1.7	1.5	3.1
	聞くこと	-7.3	-4.8	-5.5	-2.4



「H28鹿児島学習定着度調査」の「話すこと」「書くこと」の問題から

中1 10-2

10 次は、アメリカから鹿児島に来た留学生のケビン(Kevin)と中学生のタカシ(Takashi)との対話です。(1)、(2)の問いに答えなさい。単語のつづりや大文字、小文字の使い方に注意して正しく書きなさい。

(1) 二人の対話が成り立つように、()に適する語を一語ずつ入れよ。

Kevin : Who is that cool* man?
() () a movie star*?

Takashi : No, he isn't. He's my teacher Mr. Yamada.

(注) cool : カッコいい movie star : 映画俳優

対話文を読んで、相手の質問に答える適切な英文を書くことができるか。
【思考・表現】

「話すこと」と「書くこと」の2つの領域を含んだ問題。

領域で見ると特に「話すこと」、観点で見ると「表現」に課題があるね。「話すこと」については「書くこと」と関連させながら、表現の能力を育てる必要があるね。
特に、英語の基本的な表現について、目的意識・相手意識をもった対話を通して慣れ親しませながら、「書く」「話す」力を育成していくことが大切ね。



授業に何が足りないのかな？



「H28鹿児島学力定着度調査」の質問紙から

	小5	中1	中2
先生の説明を聞く	22.5%	32.3%	35.1%
自分の考えを文章にまとめる	8.6%	5.5%	5.2%
自分の考えや資料をもとに話し合う	8.8%	4.5%	3.0%

教師の説明を聞く授業が多いと感じている児童生徒が多いね。
自分の考えを表現したり、友達と根拠を基に話し合ったりする授業への改善が必要だね。
「対話的な学び」を実現させるように工夫することが大切だね。

そして、教師主導でなく、児童生徒の主体的な活動となるようにしなければならないね。
そのためには、小学校では英語を使いたくなるような体験的な学習を、中学校では小学校での学びを生かし、より発展的な学習を展開できるように工夫しなければならないね。



II 授業づくりの視点

どんな指導をしたら、ねらった力を身に付けられるかな？



授業づくりの視点

- 【視点1】 コミュニケーション活動に関心・意欲をもたせる指導の工夫
目的意識・相手意識をもたせるような教材となっているか。
- 【視点2】 考えたことを英語で主体的に表現するための指導の工夫
実態に合わせて、対話的な学びを生かす学習形態となっているか。
- 【視点3】 英語の基本的な表現について慣れ親しませるための指導の工夫
小中連携を意識し、小学校の音声指導と中学校の文字指導の関連が図れているか。

III 授業モデル（オープンサポート教科フォーラムで模擬授業を実施）



それでは、授業づくりの視点を踏まえて、平成29年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

授業充実の3ポイント を踏まえた学習過程	学習活動	時間(分) 形態	教師の具体的な働きかけ
[目標の明確化] 1 興味関心が生まれる導入	1 モデルとなる3ヒントクイズをする。 ex) What's this? Hint1 Animal. Hint2 Black. Hint3 Gesture hint. 	5 一斉	○ 第1時で行った3ヒントクイズを、再度モデルとして示す。 ○ 本時のゴールをイメージさせるために奄美に関するもののモデルクイズも示し、意欲をもたせる。(発表したくなるしかけ) ○ モデルクイズでヒントとして扱っていた語句を確認する。
	2 モデルを振り返りながら、クイズ内容を確認する。		○ 次時でALTにクイズを紹介するという目的を示すことで、活動に目的意識と相手意識をもたせる。
	3 学習のめあてを確認する。 自分が好きな奄美の宝物をクイズで紹介しよう。		
2 課題意識の焦点化 3 学習課題・めあての設定			

4 解決の予想と見通し	4 ヒントとして、活用できる語の確認をする。(カテゴリー・色・形・様子など)	7 一斉	○ 見通しをもたせるために、クイズのヒントとして活用できる語について振り返らせる。
[山場の工夫] 5 自力解決による最初の考えの構築	5 クイズの内容やヒントを考える。(個) 【考えたことを主体的に表現】 ALTに伝えたい奄美の宝物を考える。 ☆ 英語でなんて言えばいいかな…？ ☆ どんなヒントを出せば、伝わるかな。	10 個	○ 好きな物を伝えるためのクイズのヒントを既習事項を使って自分で考えさせる。 ○ モデルを想起させたり、絵カードを振り返らせたりして、より楽しいクイズになるように考えさせる。(ヒントの内容・順番・伝わりやすさ等)

視点2



慣れ親しんだ表現を振り返ることができる絵カードの提示

自分が伝えたいヒントを選んだり、書いたりできるように工夫



6 考えの交流(学び合い)	6 クイズの出し方を練習した後、グループ内で発表する。 7 クイズの内容やヒントを考える。 【話合いの視点の提示】 ☆ ヒントの内容 ☆ ヒントの順番 ☆ 伝わりやすさ ☆ thisの使い方	10 グループ	○ This○○is△△.で一言付け足して紹介することを再度確認して活動に入らせる。 【対話的な学び】 ○ 児童同士の感想交流や助言でさらに意欲をもたせる。 ○ グループ内での助言の例を取り上げ、全体に紹介し、さらに学び合いを深めさせる。 ○ グループでの話合いを基に再度クイズを練り直させ、完成させる。
7 自力解決による最終的な考えの構築	8 クイズを完成させる。		

視点2,3

グループ内での発表を取り入れることで、スモールステップで自信をもって発表することができるようにする。



話合いの視点を基に、友達にアドバイスをする。

友達のアドバイスを基に、再度クイズを練り直す。



[確かめ見届け] 8 学習のまとめ	9 ペアと全体でクイズの発表をする。 ・ 友達に言えて、分かってもらった。 ・ 次はALTに紹介したい。 ・ 同じクイズだったけれど、ヒントの出し方が違っていった。	8 一斉	○ 繰り返し発話することで、自信をもって発表することにつながるさせる。 ○ 本時の活動を振り返らせ、新たな発見、気付いたことやできるようになったことを記入させ、学びの変容に気付かせる。 ○ 数人の子どもに発表させ、意見の交流を図る。
9 振り返り	10 振り返りカードを記入する。	5 個 一斉	○ 子どもの頑張りを具体的に称賛することで、次時への意欲を高める。